

令和元年度 両荘中学校 自己評価(学校評価検討委員会)

A できている B だいたいできている C あまりできていない D できていない

領域	評価項目	評価	自己評価の顕著な結果・意見等	学校関係者からの意見等	改善策
学力向上	「学習意欲を高めるためのわかる授業づくり」	B	<ul style="list-style-type: none"> ○8割以上の生徒が、授業の内容を理解していると答えているが、保護者が理解していると答えたのは6割ずれがある。 ○生徒、保護者8割以上が楽しくわかりやすい授業があると答えている。 ○授業を通して関心を持った事柄があると答えた生徒は8割を超えるが学年が上がるにつれてその項目は減少している。 ○9割以上の保護者が成績表などで子どもの成長がわかると答えている 	<ul style="list-style-type: none"> ○「授業をおおむね理解している」の割合が保護者、生徒との認識の違いでは、生徒が楽観的すぎるのではないか。 ○保護者が、子どもに対して授業を理解できているかどうかの視点はテスト結果しかないので、6割以上取れているのであれば妥当であると考える。 ○楽しく、わかりやすい授業がある。教科書をおおむね理解できるに否定的な意見を持つ生徒は重複していると考え。これらの2割の生徒をどのように指導するか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○保護者への授業内容を進めるため、学級、学年通信などを活用し授業内容の理解を促す。 ○生徒と保護者の認識の違いを減らすために生徒に現状を把握させ勉強に取り組ませる。 ○授業においてICTの活用などを通して単元などへの関心を高める。(活用の研修を積極的に行う) ○積極的に研修に参加し学んだ内容を研究授業、研修などで公開する。 ○学習の目当て、振り返りを明確に生徒に示す。 ○職員どうしの研究会を工夫、継続して行い授業力向上に努める。
	「自主的・主体的な学習習慣と基礎学力のための家庭学習の定着」	B	<ul style="list-style-type: none"> ○7割以上の生徒が家庭学習を大切にしていると答えているが、はできていない生徒をどのようにしどするか。 ○8割以上の生徒がわからないところを自分で調べたり、人に聞いたりしていると答えている、できていない生徒をどのようにするか。 ○9割以上の保護者が、子どもの持ち物をそろえて登校させていると答えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○勉強を頑張れない生徒、どのようにして学ぶ楽しさを伝えるか。 ○家庭学習(宿題など)について、保護者が把握できていないところがある。 ○家庭学習の定着について学校、保護者の協力が必要 ○オープンスクールなど生徒の様子を見る機会を増やして、保護者ももっと参加するようにしたほうがいい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○家庭学習の具体的な方法を提示する。自主学習ノートを継続して行う。 ○学級通信などを通して保護者連絡と連携し、家庭学習を促す。 ○家庭学習が不足している生徒に対して声掛け、個別指導の回数を増やす。 ○教職員間での連絡、連携を続ける必要がある。
規律ある生活	「望ましい生活習慣の育成」	B	<ul style="list-style-type: none"> ○「学校生活は楽しい」項目に関しては生徒の97%以上が肯定的に評価している。 ○「学校からの配布物やプリントを、お家の方に渡している」から生徒の約20%が配布物を適切に渡せていないことがうかがえる。 ○「朝は自分で起きる等家庭生活において自分の身の周りのことは自分でする」から、1年生徒の約40%が否定的回答をしている。情緒面の発達に従って向上していくものと推測される。 ○昨年度と比較すると家庭学習の項目において向上が見られた。保護者のご協力の賜物と思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○配布物が入る封筒のようなものがあるとよいのではないか。準備している学年もあるので、確実に入れて持って帰るように指導してみてはどうか。 ○月間予定表は便利なので活用している。手元に渡らないと困ると思う。 ○学校に来校した時の生徒の気持ちのよいあいさつに関心する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○承認の発言を多くする。 ○プレスタイム、授業中の姿勢をよくする働きかけを生徒会中心に行う。 ○校門チェックを継続して行い、連続した遅刻者に関しては個別指導や生活改善を促す取り組みを行う。 ○道徳の教材などから得た学びを生活に生かすような取り組みを考える。 ○集団で生活する以上、全体指導が基本になるが、個人の課題に合わせた個別の対応が求められる。
	「生徒理解と信頼関係づくりのための相談活動や個別指導の充実」	B	<ul style="list-style-type: none"> ○昨年度からの課題であった「相談できる先生がいる」の項目における割合は微増にとどまった。さらなる改善が望まれる。 ○「学校は、きれいで落ち着いた環境になっていますか」の項目において、保護者の99%以上が肯定的回答であった。教育環境の整備の点からみて、これは維持すべきである。 ○「大人や先生からのアドバイスや指導を素直に聞き入れるようにしている」の項目において、生徒の約90%は肯定的回答であるが、これに関しては保護者の見解の差があると思われる 	<ul style="list-style-type: none"> ○女性担任がいない。中学生の女子が男性の先生に相談できる内容は限られている。 ○最近はいわゆる反抗期が見受けられない男子もいるようだ。はっきりとした反抗期があったほうが良いともいわれるがどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学級生徒会を充実させ、生徒総会等の場で生徒会について知る機会を増やす。 ○ボランティア活動や委員会活動等、学校生活の中で主体的に行動できる場面を継続して企画していく。 ○生徒会放送やST等を利用し、地域行事への積極的参加を呼び掛ける。 ○総合学習や道徳の授業等を通して「ふるさと意識」の醸成を図る。
	「行事や部活動による良好な人間関係づくり」	B	<ul style="list-style-type: none"> ○昨年に引き続き相互扶助の意識、行事の積極性は他校と比較しても高いと思われる(問18、22、25等)。一方、問24「周囲に間違えた言動がある時は注意したり、先生に報告するようにしている」の項目においては約40%が否定的回答であった。 ○上記に関して、多感な時期を過ごす生徒たちであるので理解はできるが、ある種の葛藤を抱えたまま学校生活を送りつづけることは必ずしも望ましいことではないと思われる。相談しやすい環境、人間関係作りが学校には望まれる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○下級生でも行事を自分たちで作っている実感が増したようだ。 ○指摘しあう関係が理想的ではあるが、人間関係を考えるとしづらいのが事実。また、近頃の中学生は対面での関係のほかにSNS内での人間関係もある。SNSでの批判や誹謗中傷が正しいことを主張することを抑制する側面も考えうる。 ○教育相談をマンネリ化させない、工夫が必要なのではないか。 ○学校に行った時、生徒の方から挨拶をしてきてくれた 	<ul style="list-style-type: none"> ○教育相談週間等を活用し、生徒と個別にかかわる時間や方法を工夫する。 ○教育相談の追跡を行い、関わる機会や対話を増やす。 ○生徒会活動を利用してSNSの使い方、いじめのない学校づくりを主体的に取り組める機会をつくる。 ○生徒会が中心となって、各行事で参加者各々に活躍の場があるよう配慮をしていく。
豊かな心・豊かな環境	「道徳の授業と人権教育」	B	<ul style="list-style-type: none"> ○大半の職員が道徳・人権教育の推進や実践に向けての時間の確保や資料の充実を図っている。その結果、生徒の回答では「学校が楽しい」「あいさつ返事ができる」「自分の周りでいじめ暴力がない」の割合が増している。保護者の回答でも90%以上が「子供が道徳心、人権感覚を身につけている」と回答している。ただし否定的な回答もあり、今後の課題である。 ○学級担任や道徳担当以外の職員も道徳の授業にかかわる機会を増やすべきである。ローテーション授業の改善、学年としての教材研究、学年を越えた授業交流なども考えるべきである。 	<ul style="list-style-type: none"> ○家庭では道徳について話し合う機会が少ない。 ○タイムリーな教材が必要である 	<ul style="list-style-type: none"> ○道徳の授業内容、感想等を「通信」「発表会」などで情報発信する。 ○教材開発、道徳の授業についての研修を行う。 ○ローテーション授業を計画に行い、学校全体で道徳教育に取り組む。 ○特別支援教育に全職員が共通理解をもって取り組む。
	「心と美しい学校を目指した環境づくり」	A	<ul style="list-style-type: none"> ○保護者の90%がきれいな環境であると答えており、教師も90%が美しい環境づくりに努めていると答えている。 ○地域行事やボランティア活動に説教的に参加している割合が昨年よりも減少しており、自主的に環境美化に取り組む生徒は少ない、目的を持たせて主体的に取り組むことが課題である。 ○ボランティアへの呼びかけは生徒から「ボランティア委員」などの形で呼びかけてはどうか ○生徒たちに目標、目的を理解させ計画的に取り組むことで今以上に達成感が味わえるのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「汚れている場所を美しくする心」を清掃することで養わせたい。 ○保護者と学校と地域が同じ目線で子どもたちに伝えるその情報共有必要 	<ul style="list-style-type: none"> ○清掃への意欲づけを、学校生活のいろいろな場面で行う。 ○生徒会活動を通して清掃に関するアンケート、ボランティア活動など主体的に通じ組める機会を作る。 ○協力して植物を育てることにより収穫の喜び、豊かな情操教育を行う。
信頼される学校	「学校生活の公開と広報活動の充実」	B	<ul style="list-style-type: none"> ○「通信など配布物について」よくわかる、わからない両方の意見があることからさらなる工夫が必要、写真、感想は継続して掲載、発行回数について検討 ○大部分の家庭で保護者への通信が手渡されている。本年度の取り組み同様、写真や感想をできる範囲で掲載するなど内容を充実させ、適切な発行回数を継続する。 ○「保護者来校の機会」両中祭など休日開催は継続、時間帯は検討。(両中祭午前中開催) ○「相談できる先生」生徒との時間共有、声かけ、学習面のサポート、認める言葉を多くする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○個人情報の扱いに注意して、写真やビデオでの情報発信は理解しやすい。 ○配布物が出ない、家庭教育大学、募金、献金などメールでお知らせしてもらいたい。 ○年間計画は非常に助かる。 ○大きな行事の休日開催の継続。展示物を見る時間の確保。保護者も普段なかなかゆっくり見る機会がないので、きちんと時間を設けてほしい。 ○警報発令で天候の回復が望めそうもない場合は早めの休校の決定をしてもらいたい、小学校とお知らせが違う。 ○保護者同士、保護者と教師の交流の場が少ないので、授業参観やOJHの後に学級懇親会のようなものを開けないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「相談できる先生」生徒との時間共有、声かけ、学習面のサポート、認める言葉を多くする。承認の発言を多くする。 ○補習や進路相談など、生徒と教師が共に過ごす時間を多くとることで、相談活動や個別指導の充実につなげる。 ○両中祭は今年度、10月に休日開催が可能であるが、来年度からは平日、または11月開催を視野に入れる。 ○39メール、ホームページを閲覧してもらえるような広報活動を行う。